

平成 23 (2011) 年 3 月度研究交流例会開催の件 (東北大震災により中止)

2011 年 3 月度研究交流例会を下記の要領により開催いたしますので是非ご参加ください。

今回は企業行動研究会所属、当学会常務理事の古山英二氏と、当学会会員で青山学院大学教授の須田敏子氏による

報告を予定しております。

記

1) 日 時 平成 23 (2011) 年 3 月 12 日 (土) 午後 1 4 時より午後 1 7 時

2) 場 所 経営倫理実践研究センター セミナー室 (地図→[クリック](#))

3) テーマおよび報告者

①14 時 00 分～15 時 20 分 : 「IFRS (国際財務報告基準) と経営倫理」

古山 英二氏 (当学会常務理事・企業行動研究部会所属)

②15 時 30 分～16 時 50 分 : 「戦略人事の倫理的側面 : 競争優位の人材マネジメントの条件」

須田 敏子氏 (青山学院大学教授・当学会会員)

* 報告① :

「国際会計基準」「IFRS」関連新聞記事を、2008 年 8 月から 2011 年 1 月までの期間で収集すると 30 件ほどになる。本件への関心度を、実務界とアカデミズムで比較すると、そこには温度差が見られるようである。日本会計研究学会会長平松一夫関西学院大学商学部教授は、2010 年 10 月 12 日開催された「日本経済学連合会創立 60 周年記念講演会」において「国際会計基準の

課題と展望：日本の役割」と題し講演し「世界的金融危機の中、日本は G20 の一員として IFRS の推進にコミットしている。IFRS は日本にとって国際公約である。従来の会計基準と IFRS との間には技術的相違点があることは事実だが細目にこだわることなく、会計基準の本質に遡って理解を深める必要がある。」と指摘、「会計大学院で倫理性・国際性・専門性に於いて国際水準の会計人の育成がなされなければ、日本の会計は世界から尊敬されないことになる。」と述べている。会計と経営倫理、IFRS と経営倫理との本質的關係を論ずる。

* 報告② :

西洋諸国（欧州・北米・オーストラリア等）で研究の進む戦略人事（Strategic Human Resource Management）であるが、日本にはまだその一端しか紹介されていないのが現状だろう。そういった現状を鑑み、報告者は昨年『戦略人事論：競争優位の人材マネジメント』を発行した。同書著は、これまでの戦略人事研究に基づきながらも、比較制度経済学・制度社会学など制度理論などに理論的背景を拡大した包括的戦略人事フレームワークを提示したものである。制度理論では、各国の社会制度・経営制度などの補完性、社会特有の習慣・価値観などが社会制度・経営制度に与える影響などに焦点をあてている。人材マネジメントには、各国がもつ特有の習慣・価値観や、経済・経営制度全体との補完性が非常に重要である。経営倫理の観点からみれば、各国に普及した人材マネジメントが社会特有の習慣・価値観を生み出し、それが社会特有の経営倫理を生み出し、それが人材マネジメントに影響を与えるという相関関係が存在する。本報告では、競争優位の人材マネジメントを経済・経営制度、社会特有の価値観・倫理観などの観点から、理論

的な分析を行う。

4) 参加費 正会員：2,000 円 学生：1,000 円（当日、例会会場にて申し受けます）

5) その他 ご出欠の確認を致したく、参加申込用紙（[クリック](#)）に必要事項をご記入の上

3月9日(水)迄に Fax または E-mail（[クリック](#)）にてご返信ください。

以上